

『松永塾』井筒建太郎氏に聞く

学力や習い事の掛け持ちなど、子どもの学習、日常の環境が問われる中、応用力や考える力の低下が指摘されている。子どもの学びの場に何が求められているのか。25年にわたり、学習塾の世界で実績を積み奈良市法蓮町の学習塾「松永塾」の井筒建太郎氏に話を聞いた。

▽時間に追われる子どもたち

「子どもの学力やゆとりについて、様々な（さまざま）意見があるが…」

「子どもたちの勉強時間が少なくなっていると感じている。以前は勉強が一番で、習い事がその次だったが、今は同列になってい



子どもたちの学びについて話す井筒建太郎・松永塾講師―奈良市法蓮町の松永塾

自分の道考え行きたい学校へ

熱意持ち伝える真剣さが必要

機会が必要、と思う。例えは、スマホを子どもに持たせるにあたり、知識の少ない子どもは手に持て余す。

「与えるか否か」から考える必要があると思う。そのためには、保護者自身も子育てや家庭での教育について、しっかりと軸を持った。

「松永塾塾長から声を掛けて頂き、一度は断ったものの、私なりに考え、お引き受けすべき目標について話す

校へ」、だから考えよう、との精神に直結している。

今の若い世代は、考えることへの関心が低い人が多いと感じる。それは、そういった環境下に置かれていないから。それならば、当塾の第1期生として、また、その精神を知る者として、私が教えてもらったことを今の子どもたちに勉強を通じて伝えていかなければならぬ。

その意味で、習い事の掛け持ちもいいが、勉強も、習い事も、遊びも、まず集中出来る環境を作ることが大切。子どもたちが将来に大きな夢を描き、その実現に向け、行ける学校ではなく、行きたい学校に進めるよう、勉強と共に考えること、大切さを真剣に、そして熱く伝える。これが松永塾イースムであり、私たちのぶれない軸だ」

を掛け持ちし、時間にと追われている子どもが多い。だから、一つ一つのことに集中出来ない。その分、勉強も習い事も習熟が浅くなる。

時代と比べて、保護者も子どもを学校や学習塾に任せきりになってきているのではないかと感じる人が多い。共働きの家庭の増加により、時間が少なくなっているのは理解出来るが、保護者が子どもとしっかりと向き合い、進むべき方向性や目指すべき目標について話す

実は、私は当塾の第1期生。松永塾長からは、流されず考えることの大切さを教えてもらった。例えは、なぜ答えがこうなるのか、なぜ怒られているのか、自分はどうしたいのか。いつも真剣さが伝わって来た。これは当塾の、行ける学校ではなく、行きたい学校へ

りすれば、それは眠る子どもより、教える側に問題があるということ。

「松永塾塾長から声を掛けて頂き、一度は断ったものの、私なりに考え、お引き受けすべき目標について話す

「子どもと真剣に向き合う姿勢と、その思いを伝えることがまず求められている。学習塾の王道は授業だが、授業中に子どもが居眠

りすれば、それは眠る子どもより、教える側に問題があるということ。

「松永塾塾長から声を掛けて頂き、一度は断ったものの、私なりに考え、お引き受けすべき目標について話す

「松永塾塾長から声を掛けて頂き、一度は断ったものの、私なりに考え、お引き受けすべき目標について話す

りすれば、それは眠る子どもより、教える側に問題があるということ。